



# 鹿児島県言語聴覚士会ニュース

## 今号目次

巻頭言  
1-2ページ

新人紹介  
3-4ページ

事務局通信  
5-8ページ

地域局  
9ページ

社会局  
(公共事業・保  
険)  
10ページ

社会局  
(地域リハ・広域)  
11ページ

社会局  
(地域リハ・市内)  
12ページ

広報局  
13-14ページ

学術局  
(新人教育)  
15ページ

学術局  
(生涯学習)  
16ページ

学術局(成人)  
17-18ページ

学術局(小児)  
19ページ

財務局  
編集男誌  
20ページ

## 巻頭言 鹿児島県言語聴覚士協会 失語・認知・高次脳機能部会 有川 瑛人

会員の皆様は、鹿児島県言語聴覚士会（県士会）の学術局の階層に位置付けられる部会の存在をご存知でしょうか。

県士会の学術局には3つの部会がございます。そして私はその一つ、「失語・認知・高次脳機能部会」に所属しております。この部会名をご覧になって「どうして3つ並ぶの？」と疑問に思った方もいるでしょう。これらの用語の意味は、確かにオーバラップしていますが、実はそれぞれに重要なニュアンスがございます。たとえば、「高次脳機能障害」。この学術用語に関しては、古くは「神経精神医学」「大脳病理学」と呼ばれ、主に「失語」「失行」「失認」を指す用語でした。それが2000年代に入ってから「高次脳機能障害」と呼ばれるようになり、「記憶障害」「注意障害」「遂行機能障害」「社会的行動障害」を指す行政用語として広く認知されるようになりました。つまり、「失語・認知・高次脳機能部会」と3つ用語が並んでいる背景には、それぞれのニュアンスを大切に、この領域に関して広く、そして深く学び、レベルアップしていただきたいという思いが込められております。

さて、昨今のコロナウイルス感染症拡大の影響で、さまざまな活動自粛を強いられている中、オンライン研修が急速に拡がり、参加できる研修会の幅も格段に広がりました。そして最近では、オンラインの利点をうまく活用した新しい研修会の形も増えたように思います。

たとえば私が所属している「認知リハビリテーション研究会」では、年1回の学術研究会の開催はもちろん、月に1回、会員限定で、オンラインによる討論会「ザ・座談会」を行っております。私もこれまでに2回、メインスピーカーとして症例を提示した経験がございます。その際は、部会の相談役でもある飯干紀代子先生（志學館大学）が司会進行をお務めくださり、そのおかげもあって、全国のご高名な先生方と有意義な時間を共有することができました。なにより、討論会を通して全国のレベルの高さに圧倒されると同時に、この領域の魅力と奥深さに感激しました。皆様におかれましても、オンラインが普及した今だからこそ経験できるさまざまな活動へ積極的にご参加いただき、STとして、臨床家として、その感性に磨きをかけて、一層県士会を盛り上げていただきたいと願っております。

最後に、今年度の部会の活動としまして、年明けの2月に小嶋知幸先生（武蔵野大学）をお招きし、「失語症の言語治療」に関する研修会を開催予定です。今のところ、1日がかりのフルボリュームで計画しております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

医療法人玉昌会 加治木温泉病院  
総合リハビリテーションセンター  
失語・認知・高次脳機能部会  
有川 瑛人

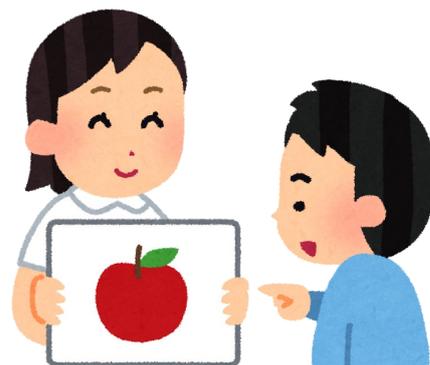
## 新人紹介 |

### ことばの教室そらまめキッズ 屋地 詩織

私は、令和4年3月に鹿児島医療技術専門学校を卒業後、現在は、薩摩川内市にある、ことばの教室そらまめキッズに勤務しています。当事業所は、2018年4月に薩摩川内市に開設し、現在は、薩摩川内市に3施設、始良市に1施設、鹿児島市の谷山に1施設開設しています。当事業所には、保育士、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、児童発達指導員が在籍しており、児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援サービスなどを行っています。行動問題や自閉症、学習障害、場面緘黙、吃音、構音障害など、様々なコミュニケーションの課題をもつ子どもたちを対象に、応用行動分析を軸とした構造化やPECSなどを導入した支援を行っています。また、「子どもの福祉からはじまるまちづくり」の理念のもと科学的根拠に基づくちょうどの療育を届けることを目指しています。

言語聴覚士として勤務して、半年が経過しようとしています。正直、時間が経つのが早すぎてとても驚いています。初めのころは、緊張と不安でいっぱい子どもたちと関わることを楽しむ余裕もなく、1つ1つこなしていくのが精一杯でした。何もできない無力さを痛感し、「自分にはむりだ…」と思うことも何度もありました。しかし、先輩方や他職種の方にたくさんのことを教えていただき、少しずつわかることやできることが増え、今では、ほんの少し余裕が出てきたかなと感じています。

入職し、多くの子どもたちと関わる中で、1人1人得意なことや苦手なこと、困っていることがそれぞれ違うということを改めて実感しました。そのため、その子にあった支援を行うことがとても大切で、毎回の支援の準備の重要性、大変さ、難しさを日々感じています。まだまだできることは少なく、「これでいいのかな…」と不安になることもありますが、子どもたちの成長や笑顔を見ることができたり、保護者の方から「ことばが出るようになった」「前より聞き取りやすくなった」などの報告をいただいたりすると、とても嬉しく、「もっと頑張ろう！」と思うことも多いです。今後たくさん子どもたちと関わるうえで、上手にいくことばかりではないと思いますが、より良い支援ができるよう、多くのことを学び、努力を重ねていきたいと思ひます。



## 新人紹介 II 社会医療法人緑泉会 米盛病院 緒方菜月

私は令和4年3月に鹿児島第一医療リハビリ専門学校を卒業し、現在は鹿児島市にある社会医療法人緑泉会米盛病院に勤務しております。当院は、救急科、総合診療科、整形外科、循環器内科、血管外科・心臓血管外科、脳神経外科、形成外科、外科・消化器外科、内科、呼吸器内科、消化器内科、脳神経内科、心療内科、リウマチ科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、小児科などの診療科があり、その中でも私は回復期病棟のリハビリテーションに携わらせて頂いております。

入職当初は、臨床現場の中では学生時代に学んだことだけでは解決しないことが多くあり、自分の知識不足や未熟さを痛感し、この先、言語聴覚士としてやっていけるのか不安でいっぱいでした。学生時代の実習とは異なり同時に多くの患者様の対応を考える必要があるため、中途半端な状態でリハビリを行っている自分に悩んだこともありました。しかし、優しい先輩方に恵まれ、なんでも気軽に相談できる環境で様々なアドバイスやご指導をいただきながら、少しずつですが自分にも出来ることが増えていきました。

実際にリハビリに携わる中で、言語聴覚士として患者様を受け持つという責任感を強く感じております。認知症の患者様に「あんたのリハビリはもうしない！」と怒鳴られ、思うようにリハビリができないこともありましたが、そんな中でも患者様やご家族から「ありがとう」「あなたに出会えて本当に良かった」などの言葉を頂いた時は、自分が少しでも患者様の力になれていることを実感し、とても嬉しい気持ちになると同時に、言語聴覚士として働くことのやりがいを感じる事ができました。

入職して約半年が経とうとしています。まだまだ未熟な面が多く、学ぶべきことがたくさんあります。今後も日々の業務や学びを大切にしながら、一人一人の患者様の生活を考えたより良いリハビリテーションが提供できるよう、努力してまいります。



# 事務局通信

## 事務局動向

### 3月

- 3月23日 全国協会より創立20周年記念式の御礼送付あり
- 3月23日 県介護実習・普及センターより「令和3年度介護教室派遣事業終了について」送付あり
- 3月30日 第46回九州地区難聴・言語障害教育研究会より「第46回九州地区難聴・言語障害教育研究会鹿児島大会開催中止について」送付あり

### 4月

- 4月6日 県介護実習・普及センターより「令和4年度介護教室派遣事業実施に伴う講師派遣等について（依頼）」送付あり
- 4月14日 指宿市役所健康福祉部より「発達相談会への講師派遣について（依頼）」あり
- 4月18日 鹿児島県医師会より「第11回口腔機能管理推進協議会書面会議報告」送付あり

### 5月

- 5月30日 日本マネジメント学会第20回九州・山口連合大会事務局より「後援名義申請について」送付あり
- 5月30日 第11回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会熊本大会より「後援依頼」送付あり
- 5月31日 県PTOTST連絡協議会理事会出席

### 6月

- 6月2日 NHK鹿児島放送局より取材依頼（失語症のある方の投票について）あり→委員会
- 6月10日 県PTOTST連絡協議会監査実施
- 6月13日 鹿児島市保健予防課より「鹿児島市口腔保健連絡協議会委員の推薦について」送付あり
- 6月13日 全国協会より「都道府県士会会長会議開催のご案内」送付あり
- 6月21日 鹿児島県小川かつみ後援会事務局より「小川かつみ参議院議員個人演説会の開催について」送付あり
- 6月26日 鹿児島県難聴・言語障害教育研究会より「行事の後援届」送付あり  
※開催中止→大会要項誌発行
- 6月26日 日本福祉用具供給協会より「快護生活フェス！福祉機器展&セミナー in かごしま後援依頼」送付あり
- 6月26日 指宿市より「親子教室への講師派遣について（依頼）」送付あり→議題
- 6月28日 県PTOTST連絡協議会総会出席
- 6月30日 公文書2件発行（指宿市親子教室関連、指宿市長・菊野病院）

# 事務局通信

## 7月

- 7月5日 市民健康まつり実行委員会（鹿児島市医師会）より「第39回市民健康まつりへのご協力方について（ご依頼）」送付あり
- 7月6日 県くらし保健福祉部へ「令和4年度失語症者向け意思疎通支援者養成研修事業に係る見積書および誓約書」提出
- 7月8日 県くらし保健福祉部より「令和4年度失語症者向け意思疎通支援者養成研修事業業務委託に係る契約書について」メールあり
- 7月8日 市民健康まつり実行委員会（鹿児島市医師会）より「第2回市民健康まつり運営委員会の開催について」送付あり
- 7月11日 県くらし保健福祉部より「令和4年度失語症者向け意思疎通支援者養成研修事業業務委託に係る契約書について」送付あり
- 7月13日 全国協会より「士会長会議全体ディスカッション\_指定規則について」送付あり

## 8月

- 8月9日 県くらし保健福祉部子ども家庭課より「鹿児島県新生児聴覚スクリーニング等環境整備協議会委員の推薦について」送付あり
- 8月12日 鹿児島市医師会より「令和4年度市民健康まつり設営に関する確認票」送付あり

## 9月

- 9月3日 九州地区学術集会熊本大会より「パネリスト推薦依頼」送付あり
- 9月5日 九州地区学術集会熊本大会より「事前参加登録のご案内」送付あり
- 9月6日 鹿児島市保健予防課より「令和4年度鹿児島市口腔保健連絡協議会の日程調整及びアンケートについて」送付あり
- 9月20日 鹿児島市医師会より「令和4年度市民健康まつり連絡・確認事項」送付あり

# 事務局通信

## 理事会報告・決定事項（事務局）

### 4月

- 指宿市発達相談会講師派遣について菊野病院に依頼することとなった。
- 新部署（社会局・地域リハビリテーション担当理事）について検討された。
- 地域局主催研修会における地域の認定言語聴覚士による講義について承認された。
- 聴覚部会部員について承認された。
- 生涯学習プログラム基礎講座講師推薦について承認された。
- 会員への情報配信（LINE）について検討された。
- 失語症者意思疎通支援者の交流会について鹿児島市以外にも実施することとした。
- 失語症者意思疎通支援事業における問い合わせ先を県士会メールアドレスとした。
- 財務局理事の任期について、再任を妨げないこととした。
- 社員総会実施について検討された。

### 5月

- 令和4年度鹿児島市地域ケア会議助言者について報告があった。
- 第11回学術講習会進捗状況について報告があった。
- 会員への情報配信（LINE）について検討された。
- 失語症支援者養成関連にて報告があった。

### 6月

- 日本マネジメント学会第20回九州・山口連合大会後援名義申請に関してPTOT県士会に確認後決定することとした。
- 第11回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会熊本大会後援を承認した。
- 小川かつみ参議院議員個人演説会に原口会長、黒木副会長、松尾事務局長が参加することとした。
- 快護生活フェス！福祉機器展&セミナー in 가고しま後援を承認した。
- 指宿市親子教室への講師派遣に関して菊野病院に依頼することとした。
- 令和4年度 地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業 初期研修実施について承認された。
- 社会局地域リハビリテーション広域部員について承認された。
- 鹿児島市お達者クラブ担当講師について報告があった。
- 言語聴覚の日についてリビング鹿児島への広告掲載が承認された。
- 各地区研修会活性化に関する準備（アンケート）について継続審議となった。
- 学術講習会の報告があった。
- 発達部会：始良・霧島地区の部員増員について承認された。
- 生涯学習プログラム基礎講座講師について検討された。
- 2年未納会員について報告された。
- 訪問リハビリテーション部会組織化について承認された。
- 失語症支援者養成関連について報告があった。

# 事務局通信

## 7月

- 県士会用Teamsについて各部も組織化することとした。
- 令和4年度介護講座講師について報告された。
- 言語聴覚の日イベントについて、イオン鹿児島にてことばの相談会を実施することとした。
- 各地区研修会活性化に関する準備（アンケート）について継続審議となった。
- 新生児聴覚スクリーニング等環境整備協議会委員について松永理事を推薦することとした。
- 第21回新人教育研修会について計画が報告された。
- 2022年度生涯学習プログラム基礎講座について計画が報告された。
- 第39回市民健康まつりの協力依頼があり、湯田理事を担当にすることとした。
- 会員への情報配信（LINE）について検討された。
- 失語症支援者養成関連について報告があった。
- 2年未納会員について退会承認となった。

## 8月

- 保険者機能強化支援事業専門職アドバイザー情報交換会の報告があった。
- 令和4年度 地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業 初期研修について計画が報告された。
- 令和4年度リハビリテーション専門職派遣事業に係る専門職の派遣について樋渡理事が担当することとなった。
- 県士会ホームページ更新について報告があった。
- 言語聴覚の日イベント進捗状況について報告があった。
- 県士会ニュース発行について報告があった。
- 各地区研修会活性化に関する準備（アンケート）について承認された。
- 生児聴覚スクリーニング等環境整備協議会の報告があった。
- 第21回新人教育研修会の進捗状況について報告があった。
- 2022年度生涯学習プログラム基礎講座の進捗状況について報告があった。
- 第39回市民健康まつりの進捗状況について報告があった。
- 会員への情報配信（LINE）について検討された。
- 失語症支援者養成関連について報告があった。
- 2年未納会員について退会承認となった。

## 9月

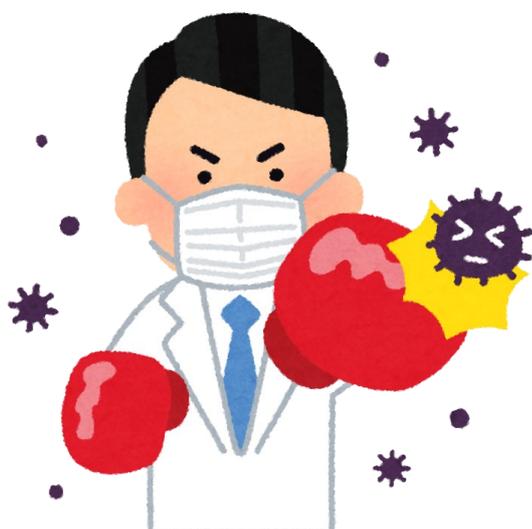
- 九州地区学術集会熊本大会パネリストについて樋渡理事を推薦することとした。
- 令和4年度 地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業 初期研修の進捗状況が報告された。
- 言語聴覚の日イベントの報告があった。
- 県士会ホームページ求人情報について、県士会会員以外の依頼も掲載することとした。
- 各地区研修会活性化に関する準備（アンケート）の報告があった。
- 臨床に係る質問応答方法について継続審議となった。
- 第21回新人教育研修会の開催報告があった。
- 2022年度生涯学習プログラム基礎講座の開催報告があった。
- 鹿児島市口腔保健連絡協議会について湯田理事が参加することとなった。
- 会員への情報配信（LINE）について承認された。
- 失語症支援者養成関連について報告があった。

事務局 松尾康弘

## 地域局(鹿児島地区担当)

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加いただき、誠にありがとうございます。鹿児島地区担当の地域局理事の湯田です。

一度落ち着いたかにもみえた新型コロナウイルス感染症も、8～9月には県下で1日に4000人以上新規発症者が出るなど、猛威を振るっておりました。9月も中旬になり再び減少傾向となり、感染者や濃厚接触者の待機日数の減少など政府の対応も徐々に変わってきております。元の生活を取り戻すまでにはまだまだ時間がかかることが予測されますが、再び皆さまと感染症に怯えることなく、対面で交流ができる日が来るのを楽しみにしております。現在、地域局では会員の皆さまとよりスムーズにやりとりが出来る方法の導入などを検討しております。今後も引き続き県士会会員の皆さまのご意見やご要望などを県士会活動に反映できるように努めて参りたいと思っておりますので、これからもよろしくお願い致します。



独立行政法人国立病院機構  
鹿児島医療センター  
湯田大介

## 社会局(公共事業・保険担当)

今年度、鹿児島県介護実習普及センター主催の介護研修会では、9回開催を予定しております。7月頃より鹿児島県においても新型コロナウイルス感染拡大し、1ヶ所延期がありました。行政職員、参加者のご協力と感染症対策の徹底を図り、計3回分の研修会（開催地:鹿児島市3回）を無事に終了する事ができました。保険関連では、診療・報酬に関する問い合わせはございませんでした。令和4年度の診療報酬改定においては、「早期離床・リハビリテーション加算における職種要件の見直し（言語聴覚士の追加）」、「摂食嚥下支援加算の見直し」、「疾患別リハビリテーション料の見直し（月に1回以上機能自立度評価FIMの測定している事を要件化）」、「リハビリテーション実施計画書の署名欄の取り扱いの見直し」といった変更がなされ、不明な点も出てくることが考えられます。診療報酬・介護報酬に関しましては、複雑な内容の問い合わせの場合、安易に答えられないため日本言語聴覚士協会に問い合わせてもらおうこととなりますが、疑問を持たれた点を県士会全体で共有するためにも、まずは気軽に県士会に問い合わせていただきたいと思います。

日本言語聴覚士協会お問合せフォーム  
<http://www.jaslht.or.jp/form.html>

公益社団法人鹿児島共済会 南風病院  
リハビリテーション科 樋渡 健太郎  
TEL:099-226-9111 FAX:099-805-2509

## 社会局(地域リハ・広域担当)

今年度より行政や他団体からの地域リハビリテーション関連の相談や依頼に関して、早急に対応できる部署として、社会局地域ケア・広域担当が新設されました。

現在、市町村において、地域包括ケアシステムの構築に向けた介護予防事業の一環として、地域ケア個別会議や介護予防講座を開催しております。さらに地域リハ活動における講師・専門職（アドバイザー）の派遣依頼も年々増加してきております。専任された講師や専門職は、地域住民や行政職員が介護やコミュニケーション支援など普段困っている内容を事前に聴取し、派遣された当日では分かりやすく、効果的な方法をお伝えしております。このことは職場の垣根を超えて、多職種との交流や横断的な活動も担っております。

上記の地域リハ活動を行う為には、当会が主催している地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業初期研修と鹿児島県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会主催の推進リーダー研修を終了した会員が対象となります。

社会局 地域ケア広域担当では、①地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業初期研修の企画・実施、②研修会修了者の名簿管理、③地域リハ活動における講師派遣を主に活動いたします。

今後ともよろしく願いたします。

公益社団法人鹿児島共済会 南風病院  
リハビリテーション科 樋渡 健太郎  
TEL:099-226-9111 FAX:099-805-2509

## 社会局(地域リハ・鹿児島市担当)

現在、POS連絡協議会の活動の一環で、地域リハビリテーション支援活動（お達者クラブへの講師派遣）を実施しております。まだまだ講師の希望者が少なく、講師をしていただける方を募集しております。活動に際して社会局が行っております研修の履修が必須となっておりますので興味のある方がいらっしゃいましたらご連絡下さい。

鹿児島市医師会病院  
瑞穂 哲也



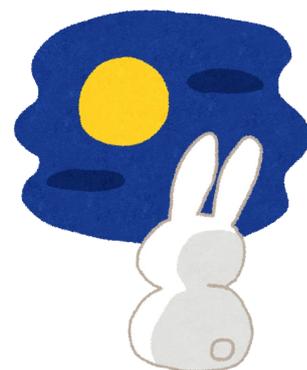
# 広報局

## 令和4年度 「言語聴覚の日」イベント 報告&広告掲載



皆様、9月1日は何の日はご存じでしょうか??・・・そうです。「言語聴覚の日」です（防災の日でもありますが！）。コロナ禍前においては、一般社団法人鹿児島県言語聴覚士会では、この時期の前後に毎年鹿児島市内のイオンモール鹿児島様の一角をお借りし、「ことばの相談会」を開催させていただいておりました。しかし、コロナ禍に入り、過去2年間実施することが叶わなかったのですが、今年は感染対策を十分に行い、また、開催方法を工夫し9月10日の十五夜の日に久しぶりに実施する事が出来ました（スーパームーンのパワーだと信じております）。当日は土曜日の開催という事もあり、特にお昼からはファミリー層はもちろんの事、県士会会員の言語聴覚士の方も多く来場されておりました。

「ことばの相談会」では、ことばに関し気になること全般の相談を承らせていただいております（もちろん、聞こえや嚥下に関しても）。過去には、小児の言語発達に関する内容を中心に相談をいただいておりますが、今年度も、ことばの発達に関する小児言語の内容を多く頂きました。主に、小児に関わる県士会会員が直接話を伺い相談にあたらせて頂きました。ことばの発達に関する保護者の悩みはもちろんの事、構音や発達全般のことなど、多くの相談をお寄せいただきありがとうございました。少しでも支援の手助けとなるよう、我々もより一層精進しないといけないと考える良い機会となりました。しかしながら、言語聴覚士の仕事内容はもちろん、職業を御存じでない方も多くいらっしゃることを感じる機会ともなり、考える事が多い一日ともなりました。



# 広報局

昨今、「言語聴覚士」をテレビで取り上げていただいたりすることもあります。職務の社会的な認知度を高めるための活動は必須であると思います。今後も積極的な広報活動を実施し、認知度の向上と言語聴覚士を志す方が増えてくれると事を期待したいと思います。さて、そんなこんなでイベントを終え相談件数をカウントしたところ、なんと！コロナ禍前よりも多くの相談をいただいた事もわかりました。一個人としてももちろん、県士会としても、言語や聴覚、嚥下などに悩みを抱えている方に対して、支援の輪が広がるよう努めてまいりたいと考えております。

また、言語聴覚の日のイベントは「ことばの相談会」だけではございません。既にご覧になられた方も多いかもかもしれませんが、今年度も昨年度に引き続き、リビング新聞（発行：南日本リビング新聞社）へ広告を掲載させていただきました（「リビングかごしま・きりしま」8月27日号）。鹿児島県内の各地域・各ご家庭へ配布されていらっしゃる媒体を通じて、言語聴覚障害を抱えた方や言語聴覚士へ関心を持たれている方、また広く一般の方に対して本土会を紹介させていただいております。

（バックナンバーをリビングかごしまWebよりご確認ください  
URL: <https://mrs.living.jp/kagoshima>）

広報局では広報活動を通じて、言語聴覚士の専門性や魅力を伝えていけるような活動を行い情報発信していきたいと思っております。今後も会員の皆様の協力は不可欠です。ぜひ、ご協力いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



かごしまの皆さま～  
＼9月1日は言語聴覚の日／です！

鹿児島県言語聴覚士会は、  
言語・聴覚・嚥下障害のある方を支援します。

一般社団法人  
鹿児島県言語聴覚士会

日程	2022/09/10 (土)
時間	10:00～15:00
場所	2F プールロード前

2022/09/01掲載

# 学術局(新人教育)

令和4年9月11日、第21回新人教育研修会を実施しました。

今回は「鹿児島の聴覚領域の現状と関連知識」をテーマに、鹿児島医療技術専門学校の戌亥啓一氏にご講演いただきました。戌亥氏は県士会の聴覚部会員としても活動していただいております。鹿児島の聴覚領域に精通しておられます。

昨今重要性を指摘されている加齢性難聴の早期発見・対応や小児領域における聴覚の問題は私たち言語聴覚士にとってとても大切なトピックだと考えています。今回は若手県士会員のみでなく、経験豊富な会員の方々の参加もあり、聴覚領域に対する興味の広さを感じました。今回は講義に加えて、日頃情報交換をする機会が少ないと考えられる聴覚領域ですので、聴覚部会員をファシリテーターとしたグループワークも実施いたしました。想定していた時間では足りないくらい色々なご意見をいただき、情報交換することもできたのではないかと思います。県士会としても、聴覚に問題を抱えた方たちの対応を、臨床の場に身を置くSTが困ることが無いよう、指針を定めていかななくてはならないと痛感した次第です。また、聴覚部会のメンバーとも検討を重ねて士会員のお力添えができるよう取り組んでいきたいと考えています。

今後も、皆様のより良い学びの場になるよう研修会を企画して参りたいと考えますので、どしどしご要望をお寄せください。よろしくお願いいたします。

【お問い合わせ・ご要望】

[yishihara@yonemorihp.jp](mailto:yishihara@yonemorihp.jp)

鹿児島県言語聴覚士会学術局新人教育担当 石原あて

# 学術局(生涯学習)

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

令和4年3月20日(日)は基礎講座3『職種連携論』、基礎講座4『言語聴覚療法の動向』を講師に慈恵会城西ナースィングホームの染川眞喜代氏をお招きし、ハイブリッド開催(現地+WEB)致しました。基礎講座3では32名、基礎講座4では33名が県内外から参加して頂きました。私は基礎講座3・4を再度聴講させて頂きましたが、経験を含めた話をして下さり、とても分かりやすい講義でした。連携の大切さやエビデンス・診療報酬の動向等をしっかり見ていく大切さを改めて感じる良い機会になりました。

また、令和4年9月11日(日)は基礎講座5『協会の役割と機構』、基礎講座6『研究法序論』を講師に学校法人原田学園 鹿児島島医療技術専門学校の松尾康弘氏をお招きし、ハイブリッド開催(現地+WEB)致しました。次回号で結果等の報告をさせて頂けたらと思います。

現在、現地でもWEBでも参加可能なハイブリッド形式となり、より基礎講座が受けやすい環境となっています。基礎講座を今まで受けることがなかなかできなかった皆さん、今年度の下期(3月予定)からは基礎講座1から順番に受講できますよー。

いちき串木野市医師会立脳神経外科センター  
リハビリテーション部 尾崎 幸平  
TEL:0993-32-9999 FAX:0996-32-0496

# 学術局(成人)

「研究とは自ら問いを発し、自らその答えを探すことであり、臨床現場で心に浮かんだ疑問を、時間をかけて研究可能な疑問へと熟成させていくことから研究は始まる」（鎌倉1997）。この1文を読み、私の中では初心にかえる気持ちがありました。

臨床では、複雑な要因が複数絡み合い、上手くいかない（障害）という事実が目の前で生じています。その際、Aという考え方のアプローチだけ行えば良い？ Bという環境の要因を整理した方が効果的なのでは？ Cという疾患だから上手く行かないのは仕方がない？ など多くの疑問が生じてきます。これらの疑問こそが「クリニカル・クエスチョン」ではありますが・・・、このままだと漠然とした疑問でしかなく、臨床には結びつきにくいのではないのでしょうか。

学生時代に1度は経験したことがある「症例をまとめる」という一手間を加える。その一手間は、とても理に適った方法なのではないかと個人的には考えています。目の前の対象者（児）を細やかに観察・評価を行い、症状や病態を把握するプロセスは、言語聴覚療法の日常そのものです。一連の経過や詳細を「まとめる」中で、その時には見えていなかったことに気付かされる。症状と解剖生理学的な矛盾は生じていないか？ 事前・事後の評価は適切であったか？ 先行研究と目の前の方の症状や改善に矛盾はないか？

多忙を極める臨床業務の中で、「症例をまとめる」ことは大変な労力がいらいます。「私」の経験が、同じ様に困っている方にとって有意義な情報になるかもしれません。折角なので、もう1歩踏み出し、症例報告を行なってみてはいかがでしょうか？

# 学術局(成人)

症例報告を行う際に指針となるのは、Case report (CARE) ガイドラインです。CARE ガイドラインは、症例報告の正確性、透明性、及び有用性を高めるために、国際的な専門家グループによって開発されました。特筆すべきこととして、CAREガイドライン12番目のチェック項目には「患者からの視点」があり、「当たり前のこと」にはっと気付かされます。科学的な根拠があり、より有効だから良かれと思って行った介入。果たして自分本位ではなかったのでしょうか？ 目の前の方が望む介入であったのでしょうか？ 自戒の念も込めて記載しました。より経験を積まれた方は、「シングルケースデザイン」を用いた考えを活用されていると思います。ここまで取り組まれている方は、私の言葉など釈迦に説法かもしれません。

どれだけ臨床経験を重ねても症例と向き合うことの意義の重要さは変わらず、本当に多くのことに気付かされます。私達セラピストの質が向上することで、今よりも多くの方の笑顔に出会えるかもしれない。私自身、もう少し、頑張ってみようと思います。

学術局 成人学術担当 小倉道広

# 学術局(小児)

昨年度より小児学術局担当として活動させていただいております松永です。今年の夏は、3年ぶりに家族でプールに行ったり、花火を見たり、BBQを楽しんだり、焼き肉を楽しんだり…と夏らしい時間を過ごすことができましたが、会員の皆様はどのような夏を過ごされたのでしょうか？

令和4年度の小児学術局では、5月15日(日)に鹿児島大学病院 発達系歯科センター 小児歯科講師の佐藤秀夫先生をお招きして、学術講習会を開催しました。「発達期摂食嚥下障害への小児歯科からの取り組み」をテーマに、県内だけでなく県外からの参加も含め約90名と多くの方々にご参加いただきました。講演では、小児歯科の役割をはじめ、言語聴覚士との連携を図っている実際の症例、また、臨床や療育の現場でも関わる機会が多い舌小帯短縮症の診方や他機関への紹介の流れ、連携の方法、そして、最新の知見、新しい考え方や用語、トピックなどをお話しいただき、私も初めて聞く用語もあり大変勉強になりました。参加された先生方からも、「口唇閉鎖の大切さを改めて感じました。普段の練習で不安だったところが緩和され明日からの臨床に取り組みやすくなりました。」、「摂食嚥下だけでなく、歯科領域に関わる広い分野のお話が聞けて勉強になり、全体をみる大切さを感じました。」、「小児嚥下自体、勉強させて頂く機会があまりなく、大変勉強になりました。小児期の歯牙の成長や構音・口腔期の訓練、補綴物の使用など興味深かったです。」など多くの感想をいただきました。

講習会を通して、成人分野だけではなく、小児分野においても「医科歯科連携の大切さ」「言語聴覚士の専門性」「言語聴覚士同士の横の連携」など多くのことを「学び・考える」。そして、1つでも多く「行動・実践」し、成長・スキルアップを後押しできる研修会や講演会を今後も開催できればと思っております。テーマ等は未定ですが、下半期には研修会を計画しておりますので、多くのご参加をお待ちしています。詳細が決まり次第ご連絡致します。

学術担当(小児) 社会医療法人 天陽会 中央病院 松永宏行

# 財務局

会員各位

平素より県土会活動にご協力賜りありがとうございます。  
財務局担当 無所属 鎮守美和です。

会費納入にもご協力頂きましてありがとうございます。6月に年会費の引き落としをさせていただいております。不備がありましたら、ご連絡いただけますと幸いです。領収書をご希望の方もご連絡いただけますと、送付いたします。まだ口座登録がお済みでない会員の方はできるだけ口座登録をしていただきますようよろしくお願い申し上げます。

会費が2年未納となりますと、退会処分となりますのでご注意ください。会費についてご不明な点がある方、口座登録用紙が必要な方は財務局メールアドレスまでご連絡ください。対応させていただきます。

財務局メールアドレス

[kago\\_st@yahoo.co.jp](mailto:kago_st@yahoo.co.jp)

担当 鎮守美和

## 編集男紙

平素よりお世話になっております。新型コロナウイルスの影響はまだまだ続いてはおりますが、社会は経済活動と並行しながらの対策を呼び掛けております。少しずつですが、コロナ禍前のようなイベントも増えつつあります。でも、まだまだ思い通りにいかない日々も多いですね。。。ストレスを感じることもしばしばありますが、秋の夜長を楽しみながら毎日を過ごしていきたいなと思う今日この頃です（月と自分を愛でていきましょ！）。

末筆ながら、皆様のご活躍をお祈り申し上げます。